

第十五回 貴族院議事速記録第一號

明治三十四年一月二十二日(火曜日)

午前十時八分開議

議事日程 第二號 明治三十四年一月二十二日

午前十時開議

第一 公爵毛利元昭君、侯爵尙泰君、子爵京極高典君、堀真五郎君、田村耕平君、赤澤伊太郎君請暇ノ件

第二 實業教育費國庫補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 移民保護法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

去ル十九日左ノ政府提出案ヲ受領セリ

一 實業教育費國庫補助法中改正法律案

一 移民保護法中改正法律案

昨二十一日久保田讓君ヨリ三十二名ノ贊成ヲ以テ學政ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタルニ依リ即日政府ニ轉送セリ

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ内務省所管事務政府委員被仰付タル旨ノ通牒ヲ受領セリ

内務書記官 白 仁 武

同 森 田 茂 吉

臺灣總督府事務官 峽 謙 齊

○久保田讓君 質問ノ主意ヲ説明致シタイト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○久保田讓君 チョット朗讀ヲ願ヒマス

〔小原書記官朗讀〕

學政ニ關スル質問主意書

第十四回帝國議會ニ於テ貴族院ヨリ政府ニ建議セル學政ニ關スル左ノ諸件

貴族院議事速記録第二號

明治三十四年一月二十二日

議長ノ報告

學政ニ關スル質問

一五

ハ政府ニ於テ如何ニ之ヲ處置セララル、意見ナルヤ  
一大學及高等學校増設ノ件  
一 學制調査及國語調査會設置ノ件  
右議院法第四十八條ニ依リ政府ニ對シ及質問候也  
明治三十四年一月二十一日

質問者 久保田讓 贊成者 公爵二條 基弘

外三十一名

○久保田讓君 尙ホ願ヒタイトノハ文部大臣ガ出テ居ラレマスナラバ願ハクハ聽イテ御賞ヒ申シタイト思ヒマス

〔久保田讓君演壇ニ登ル〕

○久保田讓君 諸君唯今此質問ノ理由ヲ説明スルニ先チマシテ何故ニ斯ノ如キ質問ヲ議會ノ初ニ提出ヲ致シタカト云フコトニ附イテ一言諸君ニ申上ゲテ置キタイトコトガアルノデアリマス、第一ニ唯今ノ此政治社會ノ議論ノ燒點ト云フモノハ内ハ財政ノ問題、外ハ北清ノ問題ニ集ツテ居リマシテ學政問題ノ如キハ殆ド度外視セラレテ居ルヤウナ有様デアリマス、成ル程北清ニ關スル問題ハ實ニ焦眉ノ急デアリマス、併ナガラ東洋ノ今日ノ形勢デアッテハ斯ノ如キ外交問題ハ今後モ年々續イテアルコトデアッテ決シテ此度ノ事、濟ンデ仕舞フト云フ事柄デハナイ、常ニ斯ノ如キ問題ハ續イテアルコト、思フノデアリマス、又財政問題ニ於キマシテモ今年ニ限ッテ特別ニ起ッタ問題デハナイ、前年ニモアッタ問題デアアル、又明年モアル問題デアアル、此財政外交ノ問題ハ今後モ益、錯雜紛糾ヲシテ此議論ト云フモノハ絶エナイコトデアラウト思フノデアリマスカラシテ、是等ノ事柄ノタメニ國家ヲ富強ニシテ行ク所ノ根本的ノ問題即チ教育ノ事業ナドヲ等閑ニ付シタリ或ハ目下ノ問題ノタメニ忘却シテシマフト云フコトガアツテハナラヌト思フノデアリマス、ソレ故ニ先ヅ第一ニ此事ヲ政府ナリ世間ナリノ注意ヲ促スタメニ殊更提出ヲ致シタイトデアアル、又第二ニハ學政ヲ振張スルト云フコトハ實ニ全國ノ輿論ニナッテ居ルノデアリマス、ソレニ拘ラズ其實效ハ未ダ舉ラヌ、其舉ラヌト云フコトハ他ニ色々原因モアリマセウガ、重ニ政府ノ財政ニ餘裕ガナイト云フコトガ一ノ大ナル原因ニナッテ居ルヤウニ思フノデアリマス、抑ニ二十九年度ニ於テ政府ガ戦後ノ經營ヲ爲ストキニ當リマシテ軍備ト實業ト云フコトニハ頗ル重キヲ置イテ教育ノコトハ甚ダ輕視シテ輕ク視ラレタヤウデアアル、輕ク視ラレタノデハナイカ知ラヌガ、兎ニ角後回シニセラレタト云フコトハ相違ナイ、即チ所謂十年

經畫ト云フ中ニハ教育ノ事ハ全ク遺算ニナツテ洩レテ居ルノデアリマス、其結果トシテ御承知ノ通軍備ハ見事ニ出來上リマシタ、ソレカラ又勸業銀行モ起リ、農工銀行モ起リ、興業銀行モ起リ、鐵道モ出來、電信モ電話モ澤山ニ出來マシタ、殊ニ電話ノタメニハ千數百萬圓ノ金ヲ掛ケルヤウナ大ナル經畫デアツテ、所謂長距離ノ電話マデ出來テ今日デハ東京ニ居ッテ坐ナガラ神戸ヤ長崎ナドト話ガ出來ルト云フヤウナコトニナリマシタ、所ガ學校ノ方ハ如何デアアルカト云ヘバ一向ニ出來ナイ、ソレ故ニ學生ハ全國ヲ驅回ッテモ這入ル所ガナイト云フヤウナ有様デ、實ニ奇態ナコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレデ其戰後經營ノ當時ニ於テハ償金ハ三億圓モ得タ、又公債ハ一億圓ヲ募リ又租稅モ増シタト云フヤウナ譯デ、財政ニハ綽々トシテ餘裕ガアルト云フヤウナ有様デ頗ル財政ニ於テ得意ナ時代デアッタノデアリマス、サウ云フ時ニ學政ノ擴張ノ經畫ヲ致シタナラバ敢テ難事デハナカッタラウト思ヒマス、併シ其事ノナカッタノハ甚ダ遺憾デアアル、ソコデ一方ニハ軍備ナドハ頗ル盛ニナルニ拘ラズ教育ノ事ガ進マナイト云フコトハ國運ヲ進メテ行ク上ニ甚ダ偏輕偏重ナコトデアアル、是非學政ヲ大イニ擴張シテ他ノ國務ト伴ッテ行クヤウニナラナケレバナラヌト云フコトハ、朝野共ニ喧マシク議論スルヤウニナツタ、ソレ故ニ政府モ或ハ八年經畫ト云フヤウナコトヲ爲シ或ハ二三ノ實業學校ヲ起シ、又ハ償金ヲ教育ノ基金ニ繰入レルト云フヤウナコトデ多少ノ目論見ハ出來タノデアリマス、併ナガラ何分戰後經營以來、年々ニ財政經濟共ニ不如意ニナリマシテ、其爲ニ此重要ナル所ノ學政擴張問題ハ今ニ解釋スルコトノ出來ナイヤウナ有様デアアルノデアアル、若シ是ガ戰後經營ノ當時ニ在ッテ學政擴張ノ問題ヲ後回シニセズ又遺算ナク經畫セラレテアリマシタナラバ今更スノ如キ議論ヲスルニハ及バヌノデアアル、誠ニ返ス／＼モ残念ノ次第デアアルト思フノデアリマス、戰後經營ノ當時ノ當局者ハ誰デアッタカ、其時ノ内閣ハ誰デアッタカト云フト、伊藤侯爵ガ總理大臣デアッタ、渡邊子爵ガ大藏大臣デアッタ、ソレカラ西園寺侯爵ガ文部大臣デアリマシタ、私ハ決シテ今更既往ノコトヲ答メル次第デアリマセヌ、併ナガラ先刻モ申ス通ノ次第デアリマスカラ此三君ハ學政擴張ノ問題ニ對シテハ淺カラヌ關係ヲ持ッテ居ラレルト思フノデアリマス、所ガ今ハ又恰モ此伊藤西園寺渡邊ノ三君共ニ政府ノ要路ニ當ラレルコトニナツタノデアリマス、殊ニ又増稅ノ計畫モセラレテ居ルト云フコトヲ承ルノデアアル、此學政ノ問題ヲ解釋スルニ屈竟ナ好時機デアルト私ハ信ズルノデアリマス、ソレ故ニ殊更此際ニ提出ヲシタノデアリマス、右様ノ次

第デアリマスカラ私ハ此開會ヲ待兼テ今日此質問ヲ提出シタ次第デアリマス、茲ニ提出ヲ致シマシタ所ノ質問ハ諸君モ御承知ノ如ク、即チ昨年第十四議會ニ於テ貴族院ヨリ政府ニ建議ヲ致シタ所ノ學政上ノ重要ナル問題デアリマス、箇條ハ二箇條ニナツテ居リマスルガ、併シ其範圍ハ頗ル廣イ、殆ト學政ノ全體ヲ總括シテ居ルト云フテモ宜シイ位ナ問題デアアル、即チ學政ヲ擴張スルコトモ學政ヲ改革スルコトモ皆此中ニ包含ヲ致シテ居ルノデアリマス、政府ハ從來是等ノ問題ニ就キマシテハ何時モ反對ノ意ヲ表シテ居ラレマセヌ、常ニ贊成ノ意ヲ表シテ居ラレル、然ルニ三十四年度ノ豫算案、是ハ未ダ公然提出ニハナリマセヌガ、内見ヲ致スニ、學校ノ増設ト云フモノハ鹿兒島ノ造士館、是ハ元アツタ學校デアアルガ一旦法令ノタメニ廢サレマシタ、ソレヲ此度復活スルト云フ箇條ガ一ツアル、其外ニハ新ニ増設致スモノハ一ツモナイ、一モナイ、唯在來ノ事業ヲ繼續スルト云フコトニ止ッテ居ルヤウニ見エルノデアリマス、其他學制ノ調査、國語ノ調査等ニ關スル費用モ見エマセヌ、蓋シ本年モ亦財政ニ餘裕ガナイカラ、シナイト云フコトノ理由ニ外ナラヌデアラウト推察ヲ致シマス、尤モ此豫算ハ前内閣ニ極ッタ所ノ豫算デアツテ、ソレヲ改メズニ…改メ直チニ現内閣ノ意嚮デアアル、意嚮モ其通デアアルト云フコトヲ推測スルコトハ出來マセヌ、併ナガラ又一方ニ現内閣ニ於テ新ニ斷行ヲセラレルト云フ所ノ増稅ノ計畫、其計畫中ニモ學校ノ増設學政ノ擴張等ノコトノ如キハ包含ヲ致シテ居ラヌヤウニ承ル、ソレハ未ダ是モ提出ニナラヌコトデアアルガ、大藏大臣カラシテ貴族院ノ議員ノ重モナル人々ニ話サレタ所ノ様子ヲ承ッテ斯ク推察ヲ致スデアリマス、果シテサウ云フ次第デアアルナラバ政府ハ此問題ヲ如何ニ處置ヲセラル、カ、ドウ處分ヲ致サル、カト云フコトヲ政府ノ意見ヲ私ハ承リタイノデアアル、抑、教育學問ト云フモノハ國家富強ノ基礎デアツテ、此教育學問ニ依ラナケレバ國運ノ伸張ヲ期スルコトハ出來ナイ、ソレガ間違ナイコトデアアルナラバ私ハ我國ノ今日ノ位置及境遇ニ於テ決シテ一日モ學政ノ擴張ヲ猶豫スル時デハナイト信ジルノデアリマス、ソレト同時ニ政府ガ單ニ財政ニ餘裕ガナイ財政ニ餘裕ナシト云フコトノ外、何等ノ理由モナク又何等ノ計畫モナク唯年々歳々在苒歲月ヲ送り、サウシテ斯ノ如キ國家ノ隆替ニ關スル所ノ大問題ヲ何時マデモ遲疑シテ決斷ヲシナイ、斯ウ云フコトハ實ニ國家ニ忠實ナラサル所ノ所爲ト言ハナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、斯ク論ジル時ニハ國力モ財政モ顧ミズ濫ニ學政サへ擴張スレバ宜イノデアアル、斯

様ナ暴論ヲ爲スガ如ク聞エルカモ存ジマセヌガ、私ハ決シテ左様ナ考デハナイ、ソレハ諸君モ御承知ノ如ク當議場ニ於テモ度々申述ベタル通總テノ國政、百般ノ國政ト云フモノハ國力ニ基イテ國度ニ應ジテ國力相當ナモノデナケラ子バナラヌト云フコトガ私ノ持論デアッテ、其邊ノコトニ注意ヲ致シテ居ルコトハ決シテ他ニ讓ラヌ積デアルノデアアル、現在ノ財政ニ於テ果シテ教育ヲ振張スル所ノ餘裕ナキヤ否ヤ、果シテ餘裕ガナイデアラウカ、私ノ見ル所ニ依レバ政府ガ決心ヲシテ行政ノ改革ヲシテ、各省ノ經費ヲ公平ニ分配ヲ致シテ、重複ニ涉リ又無用ニ屬スル所ノ經費ハ成ルベク節減ヲ加ヘ財政上ノ改革ヲ行ヒマシタナラバ現在ノ歲計ニ於テモ必シモ私ハ財力ガ不足ナリトハ思ハヌノデアアル、即チ教育費モ適當ノ供給ヲ受ケテ學政ヲ適當ニ擴張スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、併ナガラ若シ行政ヲ改革シテモ、財政ヲ改革シテモソレデモ學政ヲ擴張スルコトガ出來ナイ、ドウシテモ財力ガ不足デアアル、斯様ナ譯デアレバ已ムヲ得ズ新ニ財源ヲ求メテ租稅ヲ課スルナリ、又ハ教育ノタメニハ特ニ増稅ヲ致スナリ致シテモ、國力ノ許ス限ニ於テハ決シテ出來ナイコトデハナイト思フノデアリマス、蓋シ國民モ亦斯ノ如ク國ヲ進ムルタメニ必要ナル所ノ費用ハ之ヲ負擔スルコトハ決シテ否ムコトデハアルマイト思フノデアリマス、ソレカラ又政府ノ財政ニ向ッテハ其通デアリマスルガ、此教育ノコトヲ一般ニ擴張ヲ致スト云フコトニ附イテハ、ナカク少カラヌ費用ヲ要スルモノデアアルノデアアル、ソレハ獨リ國庫ノ金ノミナラズ府縣ニ於テモ又町村ニ於テモ頗ル巨額ノ費用ヲ要スルコトデアリマスカラシテ、教育ノ方ノ方面ニ於テモソレト十分ナル注意ヲ致シテ行カナケレバナラヌ、ソレデ中學校以上ノ學校ニ於テハ生徒ノ授業料ヲ相當ニ取ッテ行クガ宜シイ、大學ナドハ勿論授業料ナドヲモット増シテ取ッテ宜シイ、中學ノ生徒ハ唯今七萬人モアル、之ヲ一圓ヅ、ノ授業料ヲ課スルトシテモ一箇月一圓ヅ、授業料ヲ課スルトシテモ一箇年ニ七十萬圓ノ金額ヲ得ルコトガ出來ル、大學ノ學生ガ二千人トシテモ一箇月五圓ノ授業料ヲ取レバ十萬圓ノ金ハ得ルコトガ出來ル、斯様ナ譯デアアル、全國ノ小學ヨリ大學ニ至ル學生ハ四百餘萬人アル、是等モ相當ノ資産ノアッテ授業料ヲ拂フコトノ出來ルモノハ矢張自分ガ學問ヲスルタメニ相當ナ授業料ヲ拂フコトノ出來ルモノハ、サウシテ貧窮ナモノデ學問ノ出來ヌヤウナ者ニ學資ヲ給スル所ノ道ハ別段ニ講ズルガ宜シイ、斯ウ云フヤウナ方法ヲ考ヘレバ又教育ノ一ノ財源ヲ得ルコトモ出來ルノデアアル、ソレカラ又一方ニハ學校ノ經費ヲ節約シテ儉約ヲスルコトヲ考ヘナ

ケレバナラヌ、校舍ヲ建築スルニ致シテモ學校内ノ事務ヲ處辨スルニ致シテモ成ルベク經費ヲ節約スル道ヲ一方ニハ講ジテ行カナケレバナラヌ、又官立公立ニ於テ學校ヲ十分ニ立ルコトガ出來ヌト云フトキニナレバ私立學校ヲ利用スル所ノ道モ考ヘナケレバナラヌ、サウ云フ風ニ總テ教育ノ全面ニ涉ッテ首尾一貫シタル所ノ計畫ヲ定メテ參リマヌレバ此問題ヲ解釋スルコトハ必シモ難事デハナイト考ヘルノデアリマス、併シ若シドノヤウニシテモ何事モ出來ヌ、先刻來申ス所ノコトハ到底ソレハ實際ニハ出來ナイ、斯ウ云フ政府ノ考デアアルナレバ政府ハ施政ノ方針ヲ一變シナケレバナラヌ、否ラサレバ今日マデノ政府ノ方針ニ依レバ地方ノ教育ノ事業ハ政府ノ指導ニ依ッテ年々著シク進歩ヲシテ參ッテ居ルノデアアル、現ニ三十一年度ニ地方デ費シテ居ル所ノ教育費、府縣ヨリ町村ニ至ルマデ總テニ於テ費シテ居ル所ノ教育費ハドノ位費シテ居ルカ、二千二百七十二萬六千圓、二百萬圓餘ノ教育費ヲ費シテ居ル、三十二年度ニ於テハ二千七百九十萬圓費シテ居ル、殆ド三千萬圓ニ近イ金ヲ費シテ居ル、ソレモ一箇年ニ五百萬圓ヲ増加シテ居ルト云フヤウナ著シイ増加ヲ致シテ居ル、從ッテ小學ニ於テモ學齡兒童ガ百人ニ附イテ七十二人モ學ニ就イテ居ル、中學ノ生徒ハ明治三十年ニ於テハ五萬二千人デアッテ、ソレガ三十二年ニ至ッテハ六萬九千人、殆ド七萬人中學ノ生徒ガ出來テ居ルト云フヤウナ事實デアアル、地方ノ事業ハ斯ノ如ク全速力ヲ以テ進シテ參ルニ拘ラズ政府ノ事業ハ依然トシテ進マナイ、即チ中學以上ノ高イ所ノ學校ハ一向ニ出來ナイ、進マナイ、ソレ故ニ高等學校ノ入學者ナドハ年々増加ヲ致シテ參ルガ高等學校ニハ這入レナイ、其這入レナイ數ノ年々増加シテ行ク數ト云フモノハ驚クベキモノデアアル、三十一年ニハ七百八十九人デアッテ、三十二年ニハ其這入レナイ人ノ數ガ増シテ千三百四十五人ニナッテ、三十三年即チ今年ハドノ位デアアルカ、二千三百二十二ニナッテ、斯ノ如ク年々増加ヲシテ行ク、ソレハ皆中學校ヲ卒業シテ適當ニ學問ノ順序ヲ履ンテ相當ノ資格ヲ得タ者ガ高等學校ニ集ッテ來ルノデアアル、ソレガ高等學校ハ少モ殖エナイ、中學小學ハドント地方デ殖エテ進ンデ來ル、斯ウ云フコトデアアルカラ上ノ方ニ行クト忽チサウ云フヤウナ都合ナ事ガ出來テ來ルノデアアル、大學ニ至ッテモ亦其通デ、現ニ本年工科大学ニ於テハ九人デアアルカ十人デアアルカ入學スルコトノ出來ナイ者ガ出來タ、是等ノ學生生徒ト云フモノハ皆方向ニ迷ッテ居リマス、斯ウ云フコト、云フモノハ殆ド全國ノ有爲ナル少年ヲ導イテ來テ、サウシテ一ノ陷穽ヲ作ッテ居ルト云フモ

同ジコトニナリハシナイカト思フノデアアル、斯ウ云フ不幸ニ陥ル者ハ一身ノ不幸ハ實ニ甚シイコトデアアル、ノミナラズ是ハ實ニ一國ノ不利デアアル、サウ云フ者ハドウ云フ者ニナルカト云フト、或ハ失望ノ極、不都合ナ者ニナルノゾ、之ヲ劇シイ辭デ言ヘバ一國ノ亂民ヲ増シテ行クヤウナ次第デアラダラウト思フ、實ニ政府ノ一大責任ト私ハ考ヘルノデアアル、サウ云フ次第デアアルニ依ッテ先刻モ申シタ通、マルデ政府ノ施政ノ方針ヲ變ヘテ小學中學ナドヲ獎勵シナイ、小學ノ普及モ望マナイ、中學ノ設立モ許サナイ、斯ウ云フ風ニ方針ヲ變ヘテ行クナレバ、マダ生徒ガ迷ハヌダケ宜シイト云フコトニナル、併ナガラ斯ノ如キ非文明的ノコト即チ退歩的ノ所爲ハ帝國ノ國是ニ反對ヲ致スコトデアアルカラシテ、如何ナル政府デモサウ云フコトハ出來ナイデアラウト思フノデアリマス、デ右等ニ關スル政府ノ御意見ハドウ云フモノデアアルカ承リタイノデアアル、ソレカラ學制ノ調査、國語ノ調査ノ方ノ側ヨリ政府ノ近頃ノ所爲ヲ見マシレバ、已ニ普通教育ノ根本法タル所ノ小學校令ヲ改正ラセラレマシタ、又將ニ中學校令、師範學校令ノ改正ヲシ、新ニ專門學校令ヲ制定セラル、ト云フコトニ承ルノデアアル、其他字音假名遣等ヲ一定シ新文字ヲ作り漢字ヲ制限シ漢文ノ存廢ヲ議スルト云フヤウナ學制ノ改革、國語國文ノ變革ニ著手シテ著々之ヲ實行セラレルヤウニ見エル、抑、學制ノ改革、國語ノ改良ト云フコトハ頗ル重大ナ問題デアリマシテ、國家ノ永遠ノ利害ニ關係ラスル所ノ問題デアアル、殊ニ許多ノ疑點ノ存シテ居ル問題デアリマス、ソレ故ニ貴族院ハ精密慎重ナル所ノ調査ヲ爲サレタラ宜カラウト云フコトヲ昨年政府ニ建議ヲ致シタノデアアル、然ルニ政府ハ是等ニ頓著セズ前件ノ如ク學制ノ改革、國語國文改革等ハズン、決行ヲシテヤラレルト云フノハ蓋シ政府ニハ大イニ見ル所ガアッテ斯ノ如キ處分ヲセラレルノデアアラウト思ヒマス、併ナガラ一方ヨリ之ヲ見レバ少シク輕卒ノ評ヲ免レヌヤウニ思フノデアアル、現ニ改正セラレタ所ノ小學校令ヲ一見致シテモ、教育上ニ於テハ頗ル進歩シタ點ガ見エルヤウデアアル、併シ經濟上ニ於テハ或ハ退歩シテ居ル點ハナイカト思フノデアアル、小學校令ノ施行上ニ最モ困難ナルハ教育上ヨリモ寧ロ經濟ノ點デアアル、全國七百萬ノ學齡兒童ヲ悉ク教育ヲ受ケシメルト云フコトハ實ニ容易ナ話デハナイノデアリマス、且ツ小學校令ハ人民ノ權利義務ニ關係スルコトガ頗ル汎イ、又莫大ノ經費ヲ人民ガ負擔致ス所ノ法令デアアル、サウ云フモノデアアルカラ他ノ國ニ於テハ多クハ法律ヲ以テ制定致シテ居ルヤウデアアル、當局者ニ於テ精密ナ審査ヲ致スノミナラズ議院ニ於テモ反覆丁寧ニ討議ヲ盡

シテ、サウシテ決定ヲ致ス所ノ問題デアッテ、議院ニ於テ議スル所ノ法律案ノ中デモ重要ノ問題ニ屬シテ居ルノデアリマス、私ガ十年程前ニ學漏生ニ參ッタトキニ政府カラ學漏生ノ小學校令ノ改正案ヲ議院ニ出サレタノデアアル、一度ノミナラズ二度ノミナラズ出サレタ、中々通ラナイ、今日ニ於テモマダ決定ヲ致サヌト承ッテ居ル、右様ニ此小學校令ノ問題ト云フモノハ非常ニ面倒ナルツカシイ問題デアアルノデアアル、デ今我國ノ當局者ハ皆賢明デハアリマセウ、アリマセウガ、併シ當局者ノ二三ノ人ノ調査ノミデ決シテ遺憾ノナイ法令ヲ、小學校令ナドノ法令ヲ作ルト云フコトハ何分信ゼラレヌノデアアル、ソレ故ニ私共ハ此小學校令ハ勿論其他學校ノ根本法ニナル所ノ大綱ハ法律ヲ以テ制定セラレンコトヲ望ムノデアリマス、殊ニ字音假名遣ノ如キ又漢字ノ制限ノ如キ、右様ナル所ノ重大ナル問題ヲ小學校令ノ施行規則トシテ一片ノ省令ヲ以テ之ヲ變革スルト云フヤウナ處置ハ大膽ト申シテ宜シイカ、或ハ英斷ト申シテ宜シイカ、兎ニ角世間ニ於テハ大ニ異論ガアルノデアアル、ソレデ文部省デハ假名遣ヲ定メタケレドモ、政府デ出ス所ノ官報ニハ決シテソナナ假名遣ハ用キテナイ、ソレカラ又新聞紙雜誌ニ於テモソレラノ假名遣ヲ用キル傾ト云フモノハマダ少モ見エナイ、頗ル議論ガ多イ、是ハ當局者ノ英斷ニ依ッテ將來差支ナク、不都合ナク行レテ參ッタナラバ或ハ結構ナコトデアアルカモ知レナイ、併シ萬一之ガ實際ニ行レナイ事柄デアッテ、後日再ビ之ヲ改正スルト云フヤウナコトガアリマシタナラバ、如何デアリマスルカ、政府ノ責任ト云フモノハ非常ナ責任デアラウト思フ、ノミナラズ小學生徒ノ數百万人ノ受ケル所ノ損害ト云フモノハ非常ナコトデアアル、又此改正ノタメニ小學校ノ教科書ヲ變ヘルノデアアル、殘ラズ書變ヘテシマッタト云フヤウナコトデアアル、其タメニ今日デハ其審査會ヲ開イテ地方デハ皆審査ヲ致シテ居ル、其審査會モ現ニ東京市ノ中央デ府ノ官衙ノ、役所ノ中ニ審査委員ハ皆引籠ッテ、サウシテ巡査ガ番ヲシテ居ッテ其審査ヲ致スト云フヤウナコトハ實ニ醜態ヲ極メタ譯デ、甚ダ歎息ナ譯デアアル、是ハ餘事ナガラ序ニ申スノデアリマスガ、斯ノ如キ法ハドウモ甚ダ宜シキヲ得タ法トハ考ヘヌノデアアル、ソレデ私ノ見ル所ニ依レバ、學政及教育ノ制度ハ大分紊亂ヲ致シテ居ル、生徒ハ多數ノ者ガ一般ニ方向ニ迷ッテ居ル、斯ウ云フ實際デアアル、以上述べマシタ所ノ有様ニ依レバ、政府ハ貴族院ガ數年來再三再四熱心ニ注意ヲ促スニ拘ラズ學政ヲ振張シテ學校ヲ増設スル計畫ハ決定シナイ、又學政ノ改革、國語ノ改良等ハ別ニ調査ノ機關ヲ設ケズシテ當局者限隨意ニ之ヲ處分スルト云フ意見ノヤウニ見エルノデア

リマス、果シテサウデアアルカ、ドウデアアルカ、之ヲ承リタイノデアアル、併シ現内閣ハ決シテ左様ナ考デアハナイデアアラウカト思フ、伊藤總理大臣、伊藤侯ハ憲政有終ノ美ヲ爲スト云フ大抱負ヲ以テ政友會ト云フ所ノ大政黨ヲ率キテサウシテ今國政ヲ料理シテ居ラレル、殊ニ一面ニハ衆議院ニ過半数ノ議員ヲ有ッテ自己ノ經綸ヲ縱横自在ニ行ヒ得ルダケノ便宜ヲ持ッテ居ラレルノデアアリマス、又一面ニハ増稅ヲ斷行シテ財政ヲ整理スルト云フ計畫デアアルト承リマス、ソレ故ニ伊藤侯爵ハ、伊藤總理大臣ハ必ズ學制調査會ヲ起シ、國語調査會モ起シ、サウシテ精密ナル所ノ調査ヲ遂ゲテ大ニ學政ヲ擴張シ、又大ニ學政ヲ改革シテ、サウシテ此紊亂萎靡シテ居ル所ノ教育社會ニ向ッテ一大疏通ノ道ヲ執ラレテ我々ヲシテ満足セシメルコトノ途ヲ執ラレルデアアラウト信ズルノデアアリマス、殊ニ現文部大臣ノ松田君ハ大政黨ノ首領デアッテ年來此學政刷新ノコトハ自ら主張シテ唱ヘテ居ル人デアリマス、必ズ政府ニ立ッテモ大ニ主張セラレル所ガアラウト思ヒマス、是實ニ學政ヲ刷新スル所ノ好機會デアアラウト思フノデアアリマス、政府ハ速ニ廟議ノアル所ヲ示サレテ極テ大體ニ就イテ明確ニナル所ノ答辭ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス、尙ホ終ニ一言加ヘテ置キマスルノハ、希ハクハ伊藤總理大臣ガ自ら此議場ニ出ラレテ自己ノ懷抱シテ居ラレル所ノ學政上ニ關スル經綸ヲ十分ニ演說ヲシテ我々ガ拜聽スルコトノ出來ルコトヲ希望シマスルノデアリマス

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 谷子爵ハ何デスカ

○子爵谷干城君 松田文部大臣ガ出ラレテ居ラレマスカ

○議長(公爵近衛篤磨君) 出ラレテ居リマス

○子爵谷干城君 ソレナラバ少シ私ハ今ノ學政ノ事ニ就イテ質問致シタイ

○議長(公爵近衛篤磨君) 唯今ノ質問ノコトニ就イテデスカ

○子爵谷干城君 ヘイ、宜シウゴザリマスカ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是マデノ慣例ニ依リマスルト質問ノ理由ヲ述ベレバ、ソレニ對シテ政府ガ答辭ヲスル、ソレニ對シテ質問ガアレバ別デスガ、強テ規則ニ背クト云フ譯デアアリマセヌガ、其場合ニナスッテハ如何デスカ

○子爵谷干城君 御出ニナッテ居レバ短簡ニ御尋申シマスカラ、希ハクハドウ

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデア宜シウゴザリマス

○子爵谷干城君 然ラバ唯今ノ演說ニ就キマシテ松田大臣ニ御尋申上ゲマス

ルノハ、私ハ實ハ豫算ヲソレソレ見マセヌノデ、何トモ申上グルコトハ出來ヌガ、今久保田讓君カラシテ質問ノ演說中ノ御辭ニ依レバ今度立ッ所ノ、出テ居ル所ノ學校ト云フモノハ鹿兒島ノ舊造士館ヲ高等學校ニスルヨリ外ニハ何等ノ計畫モナイト云フヤウニ仰ッシヤッタト承ッテ居リマスルガ、果シテ然ラバ私ハ甚ダ其不思議ガアルノデ、ト申スハ暮ニ高等教育會議ヲ開カレマシタトキニ、ヒヨット仕舞ノ日、一週間ノ間デアリマシタガ其仕舞ノ日ニ俄ニ九州大學東北大學其他三高等學校ヲ設立スルト云フノ議案ヲ俄ニ御出シニナッテ、サウシテ速ニ可決ニナルコトヲ御請求ニナッテ、ソレガ通ッタト云フコトヲ承ッタンデアリマス、デ固ヨリ此我々議會ガ三高等學校等ノ設立ハ實ニ希望スル所デアリマスケレドモ、是ニ就イテハ十分研究モセヌケレバナラヌコトト考ヘマスガ、一週間ノ初ニ之ヲ御出シニナッタルバ又考ヘル暇モアリマスケレドモ、ヨクヨク差掛ッタコト、極必要ナコトデアッタト見エテ仕舞ノ端ニ御出シニナッテ直グニ決シタト云フコトデアリマス、スレバ今度ノ豫算ニハ必ズ出テ十分ノ御計畫ニナッテ居ルト考ヘテ居ッタガ其事ノナイト云フモノハドウ云フ譯デアリマスカ、殆ド私共ハ其時ノ様子ヲ考ヘテ見マスルト何か斯ウ衆議院議員等ガ策略的ニ議案ヲ出シテ可決スルヤウニ考ヘルガ、畢竟急グコトナラバ是モ致方ガナイガ、其理由ヲ承リタイト思ヒマスカラ、之ヲドウゾ御答ヲ願フノデアリマス

〔國務大臣松田正久君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松田正久君) 今谷君ヨリノ質問即チ是ハ久保田君ノ質問ニ對シテ、ソレヨリシテ文部大臣ニ向ッテノ質問デゴザリマスガ、其質問ハ即チ豫算

ニ文部省所管ノ中デ造士館ノミデ他ノモノガナイト云フコトカラ起ッタコトト心得マスルガ、其豫算モマダ議院ニ提出サレヌト思ヒマスルカラ豫算ノ提出ニナッタルデ御答ヲ致スガ相當ト思ヒマスカラ此席デアハ御答ヲ致シマセヌ

○子爵谷干城君 ドウゾ御立派ニ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ議事日程ニ移リマスル、公爵毛利元昭君疾病ニ附キ五十日間、侯爵尙泰君疾病ニ附キ五週間、子爵京極高典君疾病ニ附キ四週間、堀真五郎君疾病ニ附キ開會中、田村耕平君疾病ニ附キ三十日間ノ請暇ガ出テ居リマス、御異議ガナクバ許可スルコトニ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 赤澤伊太郎君請暇ノコトハ病氣全快デ本日ハ出席

シテ居リマスカラ是ハ取消シマス、實業教育費國庫補助法中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔小原書記官朗讀〕

實業教育費國庫補助法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十四年一月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

大藏大臣子爵渡邊國武

文部大臣 松田正久

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

實業教育費國庫補助法中左ノ通改正ス

第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

附則

本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員梅謙次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(梅謙次郎君) 此度提出致シマシタル所ノ實業教育費國庫補助法中改正法律案ハ從來法律中ニ補助額ヲ定メテアリマシタノデアリマスルガ、ソレヲ此度毎年豫算ヲ以テ其金額ヲ定ムルト云フコトニ改メヤウト云フ案デアリマス、御承知ノ通明治二十七年ニ實業教育費國庫補助法ナルモノガ制定セラレマシテ、初ハ毎年金十五萬圓ヲ國庫ヨリ支出致スコトニ相成ツテ居リマスガ、其後各地ニ實業學校ガ起リマシテ補助ノ必要ガ年々増加致シマスルニ依リテ、去ル明治三十一年ニ至リマシテ更ニ十萬圓ヲ増加シテ二十五萬圓ト云フコトニ改メラレマシタノデアリマスル、然ルニ其後又年々實業學校ガ増加致シマシテ從ツテ補助ヲ爲ス必要モ又増加致シマシタガタメニ、到底此二十五萬圓ヲ以テ支辨シ得ルト云フ譯ニ參ラヌノデアリマス、而シテ各實業學校ノ増加致スト云フコトハ國運ノ伸張ト共ニ免レザルコトデアツテ、又必要ナルコトデアリマスカラ、斯ク金額ヲ法律ヲ以テ定メテ置キマスルト云フト、其都度其法律ヲ改正スルノ必要ガアルト云フコト煩ニ堪ヘマセヌ、又適當ノ時期ニ於テ適當ノ保護ヲ致スト云フコトガ或ハ妨グラル、恐モナイト言

ヒ難イノデアリマス、勿論政府ニ於テ勝手ニ此金額ヲ定ムルノデハナイ、毎年議會ノ協贊ヲ經マシテ豫算中ニ其額ヲ定ムルト云フコトデアレバ、必シモ法律中ニ之ヲ明ニ定メテ置ク必要ガナイデアラウト云フ主意カラ致シマシテ、此改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御協贊アランコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段御質問モナケレバ委員ノ選定ニ移リマス、此委員ノ選定ハ慣例ニ依ツテ議長ニ御任セ下サレマスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 移民保護法中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔小原書記官朗讀〕

移民保護法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十四年一月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

外務大臣 加藤高明

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

移民保護法中左ノ通改正ス

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

第十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 移民取扱人ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受ケタル手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セス又ハ第七條ノ二ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

〔國務大臣加藤高明君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(加藤高明君) 諸君、政府ハ移民保護……海外ニ赴ク所ノ移民ノ

其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

保護ヲ全カラシムルタメニ移民保護法ノ改正ヲ加フルノ必要ヲ認メマシテ茲ニ改正案ヲ提出致シマシタ、其改正ヲ要スル事項ト竝ニ理由ハ御手許ニ回ッテ居リマス書類ニ委シク書イテアリマス、何卒御審査ノ上デ原案ノ通贊成可決アラシコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 此委員ノ選舉モ議長指名デ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ本日ノ議事日程ハ終リマス、唯今御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

〔太田書記官朗讀〕

實業教育費國庫補助法中改正法律案特別委員

伯爵廣澤 金次郎君 子爵長岡 護美君 子爵山井 兼文君

辻 新次君 男爵松平 正直君 男爵船越 衛君

男爵紀 俊秀君 久保田 讓君 伊澤 修二君

移民保護法中改正法律案特別委員

子爵岡部 長職君 子爵大久保 忠順君 宮本 小一君

男爵小澤 武雄君 小原 重哉君 男爵生駒 親忠君

馬屋原 彰君 都筑 馨六君 中西光三郎君

○議長(公爵近衛篤磨君) 次會ノ日程ハ追ッテ御報道致シマス、本日ハ散會  
午前十一時四分散會